

平成 12 年度第 5 回生物物理運営委員会

日時：9 月 11 日 12:00～13:20

場所：東北大学川内北キャンパス A201 室

出席者：郷(通)会長、木下副会長、七田副会長、柳田次期会長、阿久津、月原、難波、木寺、栗原、桑島、白井、曾我部、田之倉、豊島、船津、倭、由良各運営委員、石渡編集実行委員長、大木 H12 年会実行委員長、今井 H13 年年会実行委員長、上田支部長、児玉(大和田支部長代理)、河合会長秘書

欠席者：都甲、片岡各運営委員

議事進行の前に、大木 H12 年会実行委員より今年度年会の参加状況の説明があった。

- ・前日の 40 周年記念公開シンポジウムのパンフレット配布数は約 300 であった。

- ・年会参加登録は事前登録、会員 404 名、学生会員 227 名、非会員 7 名、学会初日の当日参加登録、会員 137 名、学生会員 90 名、非会員 109 名であった。事前、当日をあわせて現時点での参加人数は計 969 名。

- ・懇親会参加は 381 名の予定。

報告事項

(1) 賞・助成金推薦委員会報告 (七田) 資料 報 1

第 27 回日産学術研究助成(奨励研究)候補者について、井上 裕一、夏目 季代久、芳賀 永、日比野 政裕の各氏を推薦したとの報告があった。ノバルティス科学振興財団研究集会助成に推薦の第 4 回生物物理国際会議は採択されたとの選考結果が報告された。。

(2) 高校生パンフレットについて (豊島) 資料 報 2

高校生向けパンフレットについて以下の報告があった。

- ・計 1,5000 部を作成し、配布した。

- ・学校関係は高校 8,735、予備校 171 に向けて配布した。配布先リストが資料

として示された。

- ・高校への配布は、大学通信社に発送も含めて依頼した。
- ・学会員には会誌と同時に1部ずつ、計3,500部を配布する予定。
- ・これまでの経費は、作成722,820円、送付208,036円の計930,856円であった。
- ・すでにいくつか追加の請求がありそれぞれ30部ほど配布した。
- ・予備のパンフレットは会長室に置き、オープンラボなどの機会に配布することにする。

由良委員より、パンフレット関連で学会HP上で木下委員からの動画と豊島委員からの資料を掲載している。現在まで約900回のアクセスがあったとの報告。郷会長より、まだ宣伝が十分行き届いていないと思うので、さらに周知をはかりたいとの意見があった。パンフレットは会長室宛にいくつか請求があり、中には100部近くの請求あった(実際には30部程度を配布した)。郷会長より、このパンフレットが好評であれば、来年度予算でも印刷して配布したいとの意見があった。

(3) 参助会員のHPリンクについて (由良) 資料 報3

前回運営委員で認められた賛助会員のHPリンクについて報告があった。これまで、(株)シーティーアイと日製産業(株)科学システム営業本部インフォメーションセンターの2社を助参会員としてリンクした。

(4) 永山国昭 IUPAB 理事からの第3回東アジア生物物理学シンポジウム Steering

Committee 報告 (郷) 資料 報4

永山国昭氏から提出された第3回東アジア生物物理シンポジウム Steering Committee 報告が紹介された。

シンポジウムの参加国拡大に関する件で、オーストラリアとインドを含める問題について、日本は賛成であったが、他国はほとんど反対であった。第3回シンポジウムには、インドはオブザーバーとして参加することになった。参加国拡大については今後継続して審議することで一致している。

(5) 学術会議会員候補者推薦結果 (郷) 資料 なし

日本学術会議委員として物理学研連から5名が推薦された。生物物理学会か

らの推薦者は全員この推薦者に含まれているとの報告があった。

(6) 第18期生物物理学研連委員 (郷) 資料 報6

第18期生物物理学研連委員についての郷 信広氏からの通信が紹介された。

・今回は生物物理学学会から推薦された10名全員(郷 通子氏、木下 一彦氏、宝谷 紘一氏、石渡 信一氏、阿久津 秀雄氏、垣谷 俊昭氏、曾我部 正博氏、月原 富武氏、八田 一郎氏、津田 基之氏)が生物物理学研連委員として承認された。

・関連学術会議会員 郷 信広氏、IUPAB 評議員 永山 国昭氏は立場上委員となる。

・隣接学会からの委員に5名(日本結晶学会 月原 富武氏、日本蛋白工学会 阿久津 秀雄氏、日本バイオイメージング学会 中西 守氏、進化学会 伏見 譲氏、バイオインフォマティクス学会 中村 春木氏)が承認された。月原氏、阿久津氏には2学会推薦の立場をとっていただけるように提案していること、立場上委員の2氏についても、生物物理学学会推薦の形をとるよう要請がなされているとの説明があった。

(7) 細胞生物学研連から研連委員を推薦する件について (郷) 資料 報7

科研費審査委員の他研連への推薦についての報告があった。現在、細胞生物学研連は優先順位2位以上で推薦する学会からの推薦しか受けていないため、生物物理学学会からの推薦は受け付けられていない。現在生物物理学学会の優先順位は、第1位物理学研連、第2位分子生物学研連、第3位細胞生物学研連である。2年後の推薦までにこの順序を2位3位間で逆転させると細胞生物学会へ推薦可能になるので、考慮の余地があるとの説明があった。この件に関しては次期会長に申し送りとした。また、細胞生物学研連の科研費委員推薦方法に関する資料が紹介された。

(8) 学術会議「女性科学者の環境改善の具体的措置について」(要望)及び「日本学術会議

における男女共同参画の推薦について」(声明) (郷) 資料 報8

第18期日本学術会議からの要請と声明について資料の紹介と説明がなされた。要望は女性科学者の環境改善についてのものである。要望の骨子は、学会

を含む研究機関における女性参画の推進、人事選考の際に男女の比率を考慮、会員・委員の男女比を調査し、その動向変化についての分析を行うこと、などからなる。

この要望にともない、今後は審議会委員推薦の際に、学会委員の性別、学会員の性別比率に関する資料を提出する必要があるが生じる。また、その資料は学術会議によって公開される。よって、今後生物物理学会としての資料をととのえる必要があるとの説明がなされた。また、学術会議が行った調査の概要報告書が会長の手元にあるが、膨大な資料なので要請があれば閲覧できるとの説明があった。

郷会長より、現在生物物理学会では学術会議委員の推薦は選挙制ではないが、今後透明性を高めておく必要があるとの意見が示された。

(9) 生物物理バイオインフォマティクス講習会について (木寺) 資料 なし
バイオインフォマテクス講習会の準備状況について以下の報告があった。

- ・これまで5誌の学術雑誌などに講習会の広告を掲載した。
- ・参加申し込みは10月末締め切りであるが、現時点で10名程度の申し込みがあった。
- ・参加者希望者の内訳では本学会員が多い。これは参加費収入の点から少し心配が残るので、今後、参加者のリクルートに関して運営委員にお願いすることがあるかもしれない。
- ・講習内容については、ターゲットを一つに絞ったほうが良いと考えている。現在、神経伝達に関与するグルタミン酸レセプターを考えているが、他に良いターゲットがあれば推薦して欲しいとの要請があった。

桑島委員より、この講習会はバイオインフォマティクス学会が行っている講習会との関連はあるのかとの質問があった。木寺委員より、当該学会との関連はなく、講習会のテーマで棲み分けが行われているはずであると回答があった。郷会長より、木寺委員は今回で運営委員の任期が切れるが、講習会の仕事の継続性についての措置はどうなっているのかとの質問があった。木寺委員より、今回の講習会が終了するまで木寺委員が継続して世話をすると回答があった。今後の運営委員会側の窓口は美宅委員とする。

審議事項

(1) 会誌電子化について (石渡) 資料 議 1

会誌のオンライン化に関して以下の報告があった。

- ・オンラインジャーナルについて。8/21 を納期にリアライズ社へ、J-STAG 推奨の DTP ソフト Frame Maker が納入されたが、組版、図面修正、PDF 作成について問題があり、現時点でオンライン判ジャーナルの品位は満足のいくものではないと思われる。いずれにせよ、サンプル作成の作業を行い来年 1 号よりの公開を目指す。

- ・今年中のオンラインジャーナルの作成費については JST が負担することで合意している。この点に関して、石渡編集実行委員より、会誌に掛かる作業のオンライン化が軌道に乗るまでにまだ 2-3 年はかかると思われるとの見解が示された。今後オンライン化に必要とされる費用は確定するのは難しいが、当初の額である 200 万円強に比べて、人件費経費を NTT ラーニングシステムが負担することから、ハードウェアのみの負担となり減額可能かもしれないとの見通しが述べられた。この点については来年 1 月の時点で確認される予定。

- ・J-STAGE では海外からのアクセスが可能であるという利点がある。

- ・現在のシステムでは非会員でも学会 HP から学会誌のオンライン判全文が見られることになる。今後、会員はパスワード等でアクセスし全文が閲覧できるが、非会員は書誌データのみ閲覧できる形態にする。

- ・論文執筆支援システムについて。J-STAGE で推奨するテンプレートを使用した投稿では、製作全般にわたるコスト削減が見込まれる。しかし、現時点では執筆者に完全な電子投稿を望むことが難しいという問題点がある。

- ・編集支援システムについて。編集作業中の原稿の進捗を管理するシステムについては、閲覧等の基本システムを JST が本年度末までに開発する予定である。

阿久津委員より、会誌オンライン化に伴う 100 万円程度の追加費用を、今年度から発足する特別会計から支出する予定であるとの報告があった。

(2)平成 12 年度中間決算報告の承認 (桑島) 資料 議 2

平成 12 年度中間決算(平成 12 年 1 月 1 日～平成 12 年 7 月 31 日)についての説明があった。

- ・一般会員費はこれから新規入会等により増額される見込みである、
- ・広告収入、雑収入は現時点までの額である。

以下の中間決算案は承認された。

収入	平成 12 年予算	中間決算
機関会員費	1,700,000	1,608,000
賛助会員費	700,000	520,000
海外会員費	140,000	129,585
一般会員費	21,000,000	18,761,800
内訳		
(正会員費)		(16,795,300)
(学生会員費)		(1,966,500)
入会金	300,00	75,000
広告収入費	6,000,000	3,517,500
雑収入	2,500,000	679,403
内訳		
(業務収入)	(1,660,000)	(630,685)
(積立返済金)	(840,000)	(0)
(利子)	(8,718)	
(その他)	(0)	(40,000)
小計	32,340,000	25,291,288
前年度繰越金	10,000,000	28,192,889
計	42,340,000	53,484,177

支出	平成 12 年予算	中間決算
会誌出版費	11,200,000	6,140,410
内訳		
(出版費)	(7,900,000)	(4,456,297)
(原稿料)	(900,000)	(462,000)
(編集費)	(1,400,000)	(785,235)
(リ社事務費)	(400,000)	(208,878)
(委員事務費)	(500,000)	(228,000)
(会誌保管料)	(100,000)	(0)
会誌発送費	2,000,000	818,395

年会費	6,600,000	2,303,051	
名簿制作費	500,000	500,000	
委員選挙費	350,000	549,811	
運営委員会費	1,100,000	1,099,252	
委員会費	300,000	0	
学術会合費	500,000	240,120	
支部費	180,000	0	
事務費	1,000,000	829,074	
人件費	2,600,000	1,467,790	
センター業務委託		4,700,000	1,260,000
広告経費	2,000,000	928,368	
事務局開設準備費		5,000,000	5,000,000
予備費	4,310,000	1,760,058	
合計	42,340,000	22,896,329	

(3)特別会計の創設と平成 12 年度補正予算案の承認（桑島） 資料 議 3

特別会計にともなう 12 年度補正予算について説明があった。特別会計の発足が前回運営委員会で承認されたことに伴い、以下の補正予算の編成が必要となった経緯について説明があった。特別会計に 2,000 万円を繰り込むために予備費が減額されている。

以下の平成 12 年度補正予算案は承認された。

収入 予算

機関会員費	1,700,000
賛助会員費	700,000
海外会員費	140,000
一般会員費	21,000,000
入会金	300,000
広告収入費	6,000,000
雑収入	2,500,000
前年度繰越金	28,000,000

合計 60,340,000

支出 予算

会誌出版費	11,200,000
会誌発送費	2,000,000
年会費	6,600,000
名簿作成費	500,000
委員選挙費	350,000
運営員会費	1,100,000
委員会費	300,000
学術会合費	500,000
支部費	180,000
事務費	1,000,000
人件費	2,600,000
センター業務委託費	4,700,000
広告経費	2,000,000
事務局開設準備金	5,000,000
予備費	2,310,000
特別会計	20,000,000
(繰越金の一部)	(20,000,000)

合計 60,340,000

(4)平成 13 年度予算案の承認 (桑島) 資料 議 4

平成 13 年度予算案についての説明がなされた。12 年度予算と比べて大きく変わった箇所は

以下の通りである。

- ・機関会員が減少傾向にあるので収入を減額した。
- ・学会から出版された本の収入が前年とくらべて減少することが予想されるので、雑収入が減っている。
- ・支出については、緊縮財政が要求されているため、全般的に減額傾向とした。

特に、学会誌出版費用が 970 万円に減っている。また、編集委員長の活動費(昨年度予算 200 万)を減額した。

- ・年会費支出も前年にくらべて減っている。平成 11 年度の理化学研究所における年会から年会準備金が 200 万円となっていたのを、従来通り 50 万円に減額。

- ・選挙費用を余裕をふまえて増額した。
- ・事務費は実状にあわせて増額。
- ・啓蒙事業費を新たに予算にもりこんだ。

大木 H12 年会実行委員より、本年の年会準備金 200 万円については全額返還する予定であるとの意見があった。しかし、来年度からの準備金 50 万円では、学会参加費の実収入までの間をつなげるか疑問がのこる。本年会では、準備金 50 万円では不足する局面があったかもしれない、最大で 100 万円程度は必要であったように思うとの意見があった。阿久津委員より、準備金からの主な支出はなにかとの質問があった。大木年会実行委員長より、年会 HP の準備や演題を受け付けるまでの経費が結構必要であったという回答があった。阿久津委員より、今の時点で 100 万円程度に準備金を増額する必要があるだろうかとの提案があった。郷会長より、前もっていってもらえばある程度の貸出しは可能である。次回年会実行委員会については 12 月の運営委員会で要請を出してもらえば手当可能であるとの意見があった。郷会長より、人件費について、学会秘書は 1 年おきに引継のオーバーラップ期間があり、人件費予算もそれにともない増額する必要があるとの指摘があった、

以下の平成 13 年度予算案は承認された。

収入 予算

機関会員費	1,600,000
賛助会員費	700,000
海外会員費	140,000
一般会員費	21,000,000
入会金	300,000
広告収入費	6,000,000
雑収入	2,000,000
前年度繰越金	2,000,000

合計 33,740,000

支出 予算

会誌出版費	9,700,000
会誌発送費	2,000,000
年会費	4,800,000
名簿作成費	500,000
委員選挙費	500,000
運営員会費	1,100,000
委員会費	300,000
学術会合費	500,000
支部費	180,000
事務費	1,200,000
人件費	2,600,000
啓蒙事業費	100,000
センター業務委託費	4,800,000
広告経費	2,000,000
予備費	3,460,000

合計 33,740,000

(5) 平成 13 年度会誌電子化・将来事業特別会計予算案の承認 (桑島) 資料
議 5

前回運営委員会で承認された特別会計について、平成 13 年度会誌電子化・将来事業特別会計予算の説明がなされた。

・収入として来年度特別会計へ基本会計から 3,000 万円を移管する。内訳は、事務局開設準備金積み立て分から 2,000 万円、基本会計繰越金の一部から 1,000 万円である。

・支出は会誌電子化費用へ 100 万円、次年度繰越へ 2,900 万円である。

本予算案は承認された。

(6) 次期監事の候補者について (郷) 資料 なし

現監事の郷信広氏の任期切れに伴う次期監事について。慣例に基づき前会長である松本元氏とすることで承認された。

(7) 日本物理学会生体物理分科の次期世話人候補者の決定 (桑島) 資料
議 7

物理学会の生物物理分野の世話人について、今年で任期切れの鈴木 誠氏の後任を生物物理学会から推薦して欲しいとの依頼があったとの説明があった。候補者の条件として、(1)物理学会会員である、(2)生物物理学会運営委員かその関連者、(3)東京近郊の人、が望ましい。また、生体物理分科が合同運営になることからシンポジウムの策定運営に意見がいえる人がよいとの要望があった。桑島委員より、次回の物理学会運営委員会(9/22)までに決定できると都合がよい。世話人は運営委員会に出席できる人が好都合であるので、木下副会長でどうかとの提案があった。郷会長より、運営員のなかで物理学会連絡委員を設置しているので、その委員が世話人をするべきであるとの意見があった。結果、郷会長、桑島委員で候補者を絞ることで承認された。